

お知らせ

『肺癌診療ガイドライン - 悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む - 2024年版』（2024年10月18日冊子版発行，2024年10月31日Web版公開）を下記のとおり修正しました。
番号をクリックすると当該箇所にジャンプします。

修正日	Web版 当該箇所	冊子版		修正前	修正後	修正理由
		ページ	修正箇所			
2024年 10月25日	#1 (肺癌)	49	I. 肺癌の診断 4. 病理・細胞診断 CQ19 解説 10 行目	CQ10 を参照	CQ13 を参照	誤植
	#2 (肺癌)	80	II. 非小細胞肺癌 (NSCLC) 非小細胞肺癌の樹形図 3 番目のタイトル	非小細胞肺癌：II B, III A 期	非小細胞肺癌：肺尖部胸壁浸潤癌 (II B, III A 期)	誤植
	#3 (肺癌)	205	II. 非小細胞肺癌 (NSCLC) 7. IV期非小細胞肺癌 樹形図 EGFR 遺伝子変異陽性			誤植
	#4 (肺癌)	377	V. 緩和ケア 1. 緩和ケア CQ3 解説 13-14 行目	以上より，悪液質を呈する切除不能・進行非小細胞肺癌患者に選択的グレリン受容体刺激薬を投与することを強く推奨する。	以上より，悪液質を呈する切除不能・進行非小細胞肺癌患者に選択的グレリン受容体刺激薬を投与することを 推奨 する。	誤植
2024年 12月10日	#5 (肺癌)	81	II. 非小細胞肺癌 (NSCLC) 7. IV期非小細胞肺癌 樹形図 非小細胞肺癌：II B 期-N2a, III A 期, III B 期-N2	<p>〈修正前〉</p>	<p>〈修正後〉</p>	誤植

	#6 (肺癌)	233	II. 非小細胞肺癌(NSCLC) 7. IV期非小細胞肺癌 CQ63 解説 7-9 行目	Grade 3 以上の治療関連有害事象発現率は, 5.4 mg/kg 群で 38.6%, 6.4 mg/kg 群で 58.0%であり, 間質性肺炎の頻度はそれぞれ 5.9%, 8.0%であった ²⁾ 。	Grade 3 以上の治療関連有害事象発現率は, 5.4 mg/kg 群で 38.6%, 6.4 mg/kg 群で 58.0%であった。また, 投与中止に至った間質性肺炎の頻度はそれぞれ 5.9%, 8.0%であった ²⁾ 。	誤植
	#7 (肺癌)	305	III. 小細胞肺癌(SCLC) 2. 進展型小細胞肺癌 CQ10 解説下から 8 行目	OS 中央値は CP 療法 13.2 カ月 vs CE 療法 12.0 カ月, PFS 中央値は CP 療法 4.9 カ月 vs CE 療法 4.4 カ月で,	OS 中央値は CI 療法 13.2 カ月 vs CE 療法 12.0 カ月, PFS 中央値は CI 療法 4.9 カ月 vs CE 療法 4.4 カ月で,	誤植
2025 年 2 月 3 日	#8 (肺癌)	158	II. 非小細胞肺癌(NSCLC) 4. 周術期 CQ30 CQ および推奨 a,b	II B-III B 期 (第 9 版) *	II A-III B 期 (第 9 版) *	誤植
			同 推奨欄外	*N3 は除く。	* II A は N1 のみ / III B は N3 を除く。	
	159	同 解説 13 行目	II B-III B 期 (第 9 版)	II A-III B 期 (第 9 版)	誤植	
	#9 (肺癌)	277	II. 非小細胞肺癌(NSCLC) 7. IV期非小細胞肺癌 レジメン: IV期非小細胞肺癌, 併用レジメン(EGFR 遺伝子変 異陽性例のみ), 細胞傷害性抗 癌薬併用(アミバンタマブ)	アミバンタマブ 1-2 サイクル: <u>350 mg/body day 1,2</u> <u>700 mg/body day 21</u> 3 サイクル以降: <u>1,750 mg/body/body</u>	アミバンタマブ 1 サイクル: 350 mg/body, day 1 1050 mg/body, day 2 (体重 80 kg 以上: 1400 mg/body) 1400 mg/body, day 8,15 (体重 80 kg 以上: 1750 mg/body) 2 サイクル: 1400 mg/body, day 1 (体重 80 kg 以上: 1750 mg/body) 3 サイクル以降: 1750 mg/body, day 1 (体重 80 kg 以上: 2100 mg/body)	誤植